

般質問

定住対策！町の方針は…

久保 雅己 議員

問 本町の人口の減少は著しく、来年度には、2万人を割ると予測される。人口を増やす事は非常にむずかしいが、放置は出来ない。町の基本政策を問う。



答（町長）近年の経済情勢と少子高齢化、人口の一極集中、農漁業の長引く低迷など、さまざまな要因から、人口減少の波を止めることは極めて難しい情勢。本町においては、道路網や上下水道など社会インフラの整備、農漁業の基盤整備、医療・福祉・教育などの生活機能の強化など、

町が推進している施策のすべてを人口定住対策としてとらえ展開しているが、過疎化が進み、定住人口の増加は、なかなか困難。このような中、交流人口の拡大を図ることこそが、定住人口減少を少しでも抑制し地域の活力を高める大きなポイントと考えている。恵まれた自然、歴史と文化という地域の特性を活かし、滞在型・体験型の観光客誘致などを通じて、周防大島の魅力を広く知ってもらい、交流人口が増大することで直接関連する分野だけでなく、広範囲にわたって地域経済への波及効果をもたらすものと期待しており、この経済効果によって所得の向上、地域の活性化を図り、定住人口の減少の抑制につなげていきたい。



三蒲の町営住宅

イノシシ対策に補助を！

神岡 光人 議員

問 イノシシによる被害が沖浦地域にも見られるようになったが、町内全体の被害状況と出没状況は？



また、その被害予防を含めその対策をどのように考えているのかを問う。

答（町長）町内全域に出没している。根菜類を狙った掘り起こしの害。水稻の踏み倒し。たけのこ、さつま芋などの食害。水路、園路など掘り起こしによる崩壊等々。捕獲については、18年度109頭、19年度156頭、20年度240頭と年々増加している。

こうしたことを踏まえ、対策として、捕獲と防御の両面から対応することとし、捕獲については、1頭あたり9千円の捕獲委託金を支払い、頭数の減少に務める。また防御策としては、電気柵やトタン柵の設置に対する材料費の補助を22年度から実施に向け検討をしている。

イノシシの捕獲頭数

	大島地区	久賀地区	橘地区	東和地区	合計
18年度	10	0	22	77	109
19年度	30	0	25	101	156
20年度	81	2	22	135	240
計	121	2	69	313	505